



サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2014 の開催について（お知らせ）

開催趣旨： サステナビリティ・ウィークの一環として行われるサステイナブルキャンパス国際シンポジウムは 2011 年から始まり、今回で4回目を迎えます。

昨年のシンポジウムでは、「地域と連携したサステイナブルキャンパスの構築」をテーマに、大学キャンパスの役割を地域計画の中でどう位置づけるかが一貫して主題となり、特に、本学札幌キャンパスは、市街中心部において他との明解な境界を持つにも関わらず、市民や観光客との相互作用が起きやすい環境にあるとの指摘から、その“浸透膜”のような柔らかい境界を活かしたキャンパスづくりを目指すべきであるとの意見で議論が締めくくられました。

これを踏まえ、今回は「サステイナブルキャンパス構築のための思想と実践—大学にとって地域とは—」をテーマに、なぜサステイナブルキャンパスが必要なのか、諸外国において、大学の地域連携はサステイナブルキャンパス構築の文脈の中でどのように位置づけられているのか、といった思想的・実践的課題について講演を行います。さらにその後のパネルディスカッションでは、本学にとっての「地域」を想起しながら、地域連携のためにキャンパスがどのように活用されるか、その可能性を議論します。

日程：平成 26 年 11 月 25 日（火）13 時～17 時 45 分（開場 12 時 30 分）

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北 8 西 5）

主催：北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部、北海道大学施設部

参加費： 無料

言語： 日本語・英語（同時通訳あり）

プログラム：

(1) 開会挨拶

13:00～13:05 北海道大学施設部長 矢部輝雄

(2) 来賓挨拶

13:05～13:10 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長 森 政之

(3) 趣旨説明

13:10～13:30 北海道大学工学研究院 准教授 小篠隆生

(4) 基調講演(40分×2名)

13:30～14:10 京都大学経済学研究科 教授 植田和弘

14:10～14:50 ルクセンブルグ大学 教授 アリアネ・ケニッグ

14:50～15:10 質疑応答

(5) 15:10～15:25 休憩（15分）

(6) 15:25~17:40 パネルディスカッション (120分+休憩15分(16:25~16:40))

● パネリスト:

- ・ 植田和弘 (京都大学経済学研究科 教授)
- ・ アリアネ・ケニック (ルクセンブルグ大学 教授)
- ・ 森 政之 (文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長)
- ・ 生島典明 (札幌市副市長)
- ・ 吉見 宏 (北海道大学経済学研究科 教授, 経済学研究科長)
- ・ 小篠隆生 (北海道大学工学研究院 准教授)

- コーディネーター: 小澤丈夫 (北海道大学工学研究院 准教授)

(7) 閉会挨拶

17:40~17:45 北海道大学理事・副学長 三上 隆

基調講演者経歴

○植田和弘(うえた かずひろ)

京都大学大学院経済学研究科教授

環境経済学者。京都大学工学部卒業, 大阪大学大学院修了。京都大学助手, 同助教授, 教授を経て, 現在, 京都大学大学院経済学研究科教授。2002-2012年に同地球環境学堂教授を両任。経済学博士, 工学博士。地球温暖化防止の環境経済戦略や持続可能な日本社会への環境・エネルギー政策を研究している。環境経済・

政策学会会長(2006-2010), President, East Asian Association of Environmental and Resource Economics (2010-2012)を歴任。『環境経済学』『廃棄物とリサイクルの経済学』など著書, 論文多数。近著に、『緑のエネルギー原論』岩波書店(2013)。現在, 調達価格等算定委員会委員長, 総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員などを務めている。



○Ariane König (アリアネ・ケニック)

ルクセンブルグ大学サステナビリティデベロップメントセンター長

ドイツ・トリア市出身。英国ケンブリッジ大学生化学学部卒。同大学にて生化学博士号取得。その後, 米国ハーバード大学ケネディー行政スクール・ベルファール科学国際研究所・フェロー, 英国オックスフォード大学サイドビジネススクール・ジェームスマーティン科学文化研究所・研究フェロー, ルクセンブルグ大学役員補佐を経て, 現在ルクセンブルグ大学サステナブルデベロップメントセンター長。また, ルクセンブルグ大学地理・空間計画研究所・上席研究員も兼任。持続可能性に向けたキャンパス運営や計画及び市民参加の実践を含めた教育・研究の統合をテーマとしている。現在, 国際サステナブルキャンパスネットワークのワーキンググループ3チェアマンも務めている。



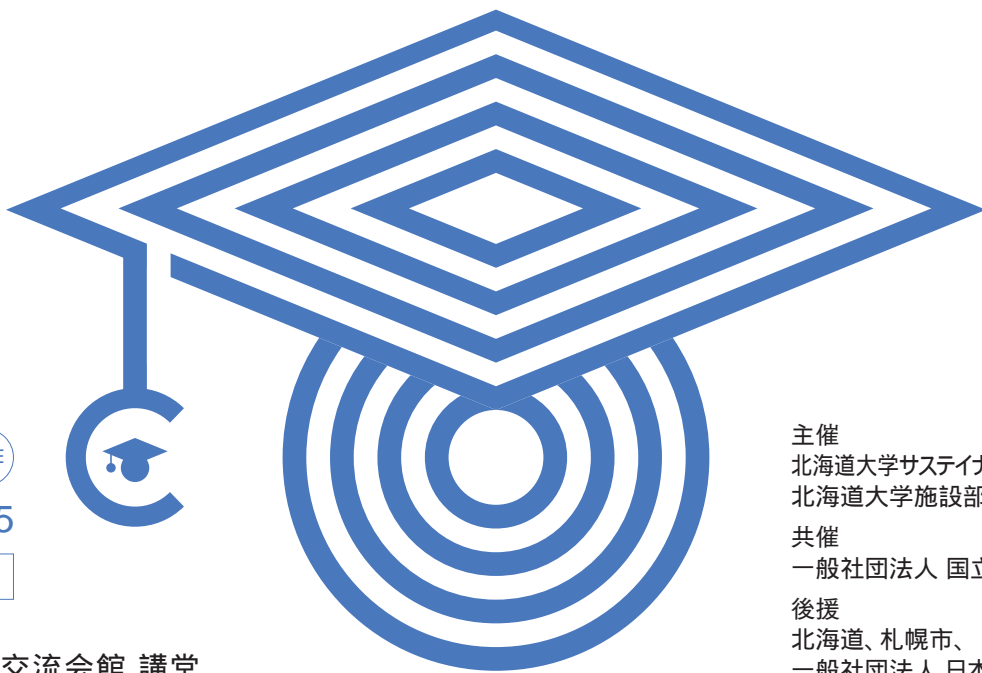
お問い合わせ先

北海道大学施設部環境配慮促進課サステナブルキャンパス推進本部担当

TEL : 011-706-3660 FAX : 011-706-4884 E-mail : osc@osc.hokudai.ac.jp

サステナブルキャンパス国際シンポジウム 2014

サステナブルキャンパス構築のための思想と実践—大学にとって「地域」とは—



11.25 (TUE)
13:00 → 17:45

参加無料

会場
北海道大学学術交流会館 講堂
同時通訳有

お問い合わせ / Contact us ホームページ
<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/>

参加申し込み URL
<https://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/application/>

QRコード

主催
北海道大学サステナブルキャンパス推進本部、
北海道大学施設部

共催
一般社団法人 国立大学協会

後援
北海道、札幌市、
一般社団法人 日本建築学会北海道支部



ご案内
翌日26日 にサステナブルキャンパス推進協
議会(CAS-Net JAPAN)年次大会を予定。

サステナビリティ・ウィークの一環として行
われるサステナブルキャンパス国際シン
ポジウムは2011年から始まり、今回で4回
目を迎えます。

昨年のシンポジウムでは、「地域と連携し
たサステナブルキャンパスの構築」をテー
マに、大学キャンパスの役割を地域計画
の中でどう位置づけるかが一貫して主題
となり、特に本学札幌キャンパスは市街中
心部において他との明解な境界を持つに
も関わらず、市民、観光客との相互作用が
起きやすい環境にあるとの指摘から、その
“浸透膜”のような柔らかい境界を活かし
たキャンパスづくりを目指すべきであるとの
意見で議論が締めくくられました。

これを踏まえ、今回は「サステナブルキャン
パス構築のための思想と実践 大学
にとって地域とは」をテーマに、なぜサ
ステナブルキャンパスが必要なのか、諸
外国において、大学の地域連携はサステ
ナブルキャンパス構築の文脈の中でど
のように位置づけられているのか、といっ
た思想的・実践的課題について講演を行
います。さらにその後のパネルディスカッ
ションでは、北大にとっての「地域」を想
起しながら、地域連携のためにキャンパス
がどのように活用されるか、その可能性
を議論します。

プログラム	司会:池上真紀(北海道大学サステナブル キャンパス推進本部 コーディネーター)
12:30 - 13:00	受付
13:00 - 13:05	開会挨拶 矢部輝雄(北海道大学施設部長)
13:05 - 13:15	来賓挨拶 文部科学省
13:15 - 13:30	趣旨説明 小篠隆生(北海道大学工学研究院 准教授)
13:30 - 14:10	基調講演 植田和弘(京都大学経済学研究科 教授)
14:10 - 14:50	基調講演 アリアネ・ケニック(ルクセンブルグ大学 教授、 サステナブルデベロップメントセンター長)
14:50 - 15:10	質疑応答
15:10 - 15:25	休憩
15:25 - 17:40	パネルディスカッション パネリスト 上記講演者 森 政之(文部科学省大臣官房文教施設企画部 計画課整備計画室長) 生島典明(札幌市 副市長) 吉見 宏(北海道大学経済学研究科 教授、 経済学研究科長) 小篠隆生(北海道大学工学研究院 准教授) コーディネーター 小澤丈夫(北海道大学工学研究院 准教授)
17:40 - 17:45	閉会挨拶 三上 隆(北海道大学理事・副学長)
18:15 - 20:00	レセプション 会場:ファカルティハウス「エンレイソウ」

基調講演 ゲストスピーカー

うた かずひろ
植田和弘
(京都大学経済学研究科 教授)

環境経済学者。京都大学工学部卒業、大阪大学大
学院修了。京都大学助手、同助教授、教授を経て、
現在、京都大学大学院経済学研究科教授。2002 -
2012年に同地球環境学堂教授を両任。経済学博士、
工学博士。地球温暖化防止の環境経済戦略や持続
可能な日本社会への環境・エネルギー政策を研究し
ている。環境経済・政策学会会長(2006 - 2010)、
President, East Asian Association of
Environmental and Resource Economics (2010 -
2012) を歴任。『環境経済学』『廃棄物とリサイクル
の経済学』など著書、論文多数。近著に、『緑のエ
ネルギー原論』岩波書店(2013)、現在、調達価格
等算定委員会委員長、総合資源エネルギー調査会
基本政策分科会委員などをつとめている。

アリアネ・ケニック
(ルクセンブルグ大学 教授、
サステナブルデベロップメントセンター長)

ドイツ・トリア市出身。英国ケンブリッジ大学生化学
部卒。同大学にて生化学博士号取得。その後、米国ハー
バード大学ケネディー行政スクール・ベルファー科学国際
研究所・フェロー、英国オックスフォード大学サイドピ
ジネススクール・ジェームスマーティン科学文化研究所・
研究フェロー、ルクセンブルグ大学役員補佐を経て、現
在ルクセンブルグ大学サステナブルデベロップメントセ
ンター長。また、ルクセンブルグ大学地理・空間計画研
究所・上席研究員も兼任。持続可能性に向けたキャン
パス運営や計画及び市民参加の実践を含めた教育・研
究の統合をテーマとしている。近著に「Regenerative
sustainable development of universities and cities:
the role of living laboratories」。現在、国際サステ
ナブルキャンパスネットワークのワーキンググループ3チエ
アマンもつとめている。